

新撰組の歩いた京都

57期生

I テーマ設定の理由

大河ドラマ「新選組!」を見て、新撰組にとっても興味を持ち、壬生や屯所跡など関連ある土地に行き、本物を見て知識を増やすにつれてもっと知りたいと思うようになった。有名な「池田屋事件」の後の動きや現在との違いなどをくわしく調べようと思ったのでこのテーマにしました。

II 研究方法

- (1) 現地で本物を見て写真をできるだけ撮り、パンフレットを集める。
- (2) 古地図などを図書館やインターネットで調べる。

III 研究内容

1. 新撰組の歴史

1863(文久3)年2月8日、後に新撰組となる近藤勇や芹沢鴨を含む浪士組が江戸を出発した。その後東下する浪士組の中の残留浪士、17人は京都守護職の会津藩主・松平容保(かたもり)に嘆願書を提出する。その2日後の3月12日、近藤らは会津藩お預かりとなり、「壬生浪士組」と名乗ることになる。

1863・9・16 芹沢鴨・平山五郎、八木邸にて暗殺される。

芹沢は剣術に秀でていたものの、性格が粗野だった。その芹沢が引き起こした大和屋焼き討ち事件後、会津藩が芹沢の抹殺を近藤らに内示したといわれる。

侵入したのは土方歳三、沖田総司、原田左之助、山南敬助の4人で八木邸には芹沢鴨、平山五郎、平間重助そして芹沢の愛人のお梅がいた。●印のあたりに刀傷が残る。この事件で芹沢一派は排除

され、近藤勇の壬生浪士組が完成することになる。その後、松平容保公から「新撰組」の名が与えられる。

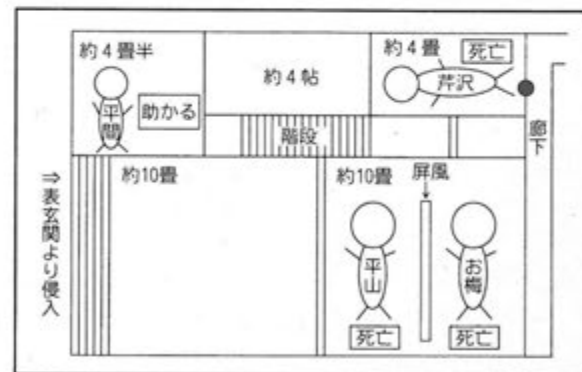


図1 9月16日の八木邸

1864・6・5 池田屋事件。

(元治元年) 三条小橋の池田屋を襲撃、尊攘派浪士を多数捕殺する。四条小橋で薪炭商を営んでいた枡屋喜右衛門を捕らえ、連行。土方の苛酷な拷問で、ついに口を割らせた。本名・古高俊太郎、志士たちの武器調達係を務めていたことが判明。古高の邸からは大量の武器や密書が押取された。池田屋事件当日、近藤は隊士を祇園会所に集めた。

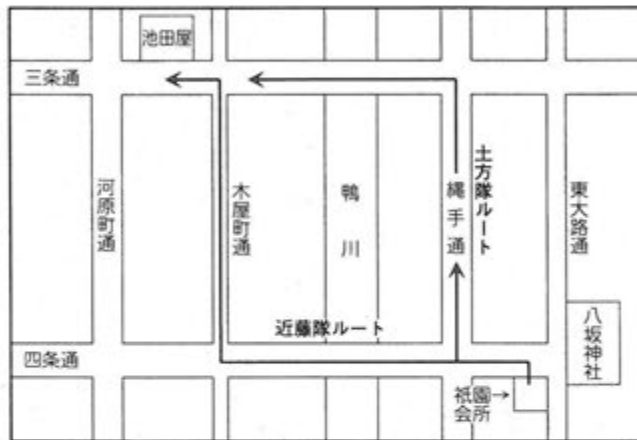


図2 祇園会所から池田屋までの道のり



写真1 祇園会所跡

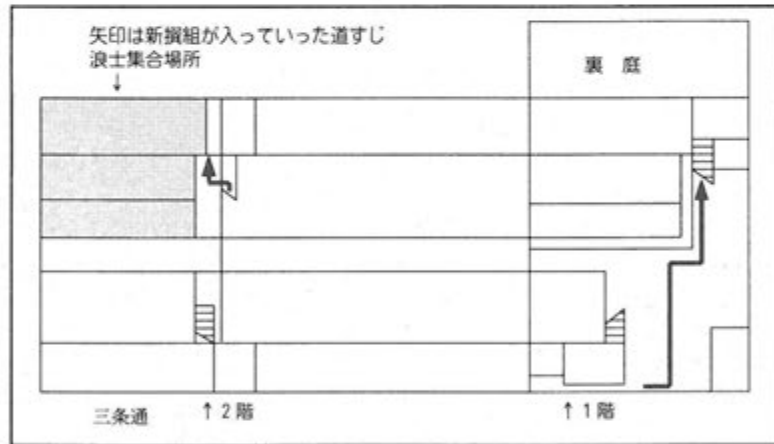


図3 池田屋見取り図

- 1864・7・19 禁門の変。
- 1865・2・23 山南敬助、脱走。そして切腹。
- 1865・3・10 屯所を壬生から、西本願寺に移転。
- 1867・3・20 伊東甲子太郎ら13名、脱隊。
- 11・18 油小路事件。

近藤暗殺を企てるが逆に襲撃されてしまう。また遺体を引き取りに来たものの壊滅もはかる。



写真2 池田屋騒動之址

1867・12・18 近藤勇、高台寺党（伊東派）の残党により、負傷。

1868・1・3 鳥羽・伏見の戦い

入京を求めて鳥羽街道を北上した幕府軍は赤池に布陣する薩摩軍と衝突する。これが鳥羽・伏見の戦いの始まりだ。5日、一進一退の攻防に終止符を打ったのは薩長軍が掲げた錦の御旗だった。十六弁菊の紋が戦場にひるがえった瞬間、賊軍となった幕兵は淀川沿いに大坂へ敗走した。約5年にわたって京を守護していた新撰組もそれに続く。徳川幕府の完全な終焉を世に示す、敗走だった。

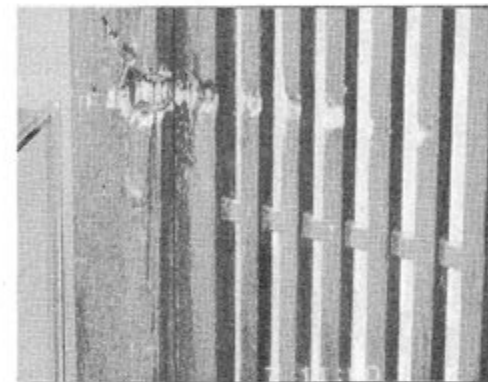


写真4 鳥羽・伏見の戦いの弾痕



写真3 鳥羽・伏見戦跡

2. 新撰組と同じ時代に活躍した人々

・坂本龍馬 (1835~1867)

19才の時に山南敬助や藤堂平助らと同じ、北辰一刀流の千葉定吉道場に入り、同年、佐久間象山塾に入門。文久元 (1861) 年、武市瑞山 (たけちずいざん) 主導の土佐勤王党に加盟するが急進的な攘夷論に同意できず、脱藩。その後、海軍と貿易に従事しつつ、薩長同盟の締結に奔走、実現する。



写真5 → 「寺田屋」内の龍馬が住んでいたといわれる部屋。



写真6 土佐藩邸跡

※寺田屋とは…。

坂本龍馬や薩摩藩士が利用した宿屋。この宿で龍馬は幕吏の追跡をかわしている。付近では新撰組とも遭遇。が、知らん顔で恋人・おりょうを置き去りにし、危機を脱した。伏見に今も現存する。



写真7 寺田屋



写真8 寺田屋騒動記念碑

・桂小五郎 (1833~1877)

吉田松陰に入門したのち、江戸へ出て江戸三大道場のうちの1つ、練兵館で永倉新八や芹沢鴨らと同じ神道無念流を学ぶ。同じ吉田門下の久坂玄瑞らと尊王攘夷派のリーダーとなる一方で勝海舟や坂本龍馬など開明派とも親交を持った。薩長同盟を締結し、明治維新の立て役者となる。また、維新後は参議など重要な役職を歴任。政府内の進歩派の中心として版籍奉還、廃藩置県に尽力。

桂小五郎の恋人・幾松とは芸妓で美しく頭も良いと評判だった。落籍後も芸妓を続け、勤皇志士のために情報収集を行った。明治維新後は名を「松子」と改め、正式に桂小五郎の妻となった。当時2人が住んでいた所は現在「幾松」という名の料亭となっていて、近くには長州藩邸跡があります。



← 写真9 桂小五郎像

・佐久間象山 (1811~1864)

近代技術による国力増強と開国論を展開した当時、象山が開いた私塾には吉田松陰、勝海舟、坂本龍馬などが入門。が、尊王攘夷派に暗殺された。

・勝海舟 (1823~1899)

妹婿の佐久間象山の影響で蘭学・海軍に開眼。皆が鎖国続行を訴えるなか、「海防意見書」を提出、海軍の充実を説いた。一方で、徳川慶喜に恭順を説き、無血の江戸開城に貢献した。

・久坂玄端 (1840~1865)

吉田松陰の開いた松下村塾の最初の入塾者。松陰の刑死後は薩摩、土佐、水戸の志士らと交流を深め、尊王攘夷の急進論者となる。禁門の変に出撃するも戦いに敗れ、25才で自害した。

・松平容保 (1835~1893)

桜田門外の変が水戸浪士によるものだという事を知った幕府が水戸藩を征伐しようとした時、内紛の愚かさを訴えたことが高く評価され、京都守護職につく。京都では新撰組や見廻り組などを率いて勤皇志士の取り締まりにあたった。鳥羽・伏見の戦いでは、敗れるが最後まで幕府への信義を貫いた。

3. 古地図で見た京都 — 江戸時代と現代の比較 —

比較する時に基準としたのは鴨川、堀川、四条通、烏丸通、二条城、御所、東・西本願寺です。通はこの2つが特に分かりやすかったので基準としました。

(1) 変わっていない所

- ・区画が整理されている所。その区画1つ1つの大きさがあまり変わらない所。
- ・屋敷の大きさが普通のものとは違う藩邸類は洛中の中心から外れた所に多い。
- ・お寺がいくつかつつ、固まっている。

(2) 変わった所

- ・主要道路の道幅が広げられている (場所は変わらない)。
- ・川が整備されている。
- ・通や町の名前が変わっている。

(3) 分かった事

変わった所は街の発展に伴ったものばかりである。洛中の道筋、街並は江戸期にはすでに固定されていたといえる。明治末から大正初めにかけて行われた新しい町づくりも水道関係や道路の拡張のみであるという。寺院群は町割造成とともに天正の都市改造のときに集められたものである。



図4 江戸時代の区画



図5 現代の区画

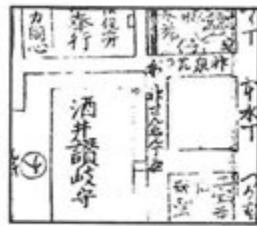


図6 蒲邸



図7 江戸時代の寺院群



図8 現代の寺社群

IV 感想

もう少し、古地図を生かせば良かったと思います。

この研究を通して京都に何度も行ってどんどん新撰組や京都が大好きになりました。寺田屋や壬生の八木邸みたいに今も残っていて一般公開されている所はいいんですが、碑だけとか看板だけで示されているのはとても悲しいです。あの有名な池田屋も今となっては取り壊されていて、碑の隣の建物があった所にはパチンコ屋さんとなっています。今、京都では新撰組ブームに便乗して看板が建てられたりしていますがそれよりも私は残っている遺産を大切に守っていただきたいです。

V 参考文献

- 山村竜也 「わかる! 新撰組」
- 三谷幸喜 「NHKドラマストーリー “新選組!” 前編」
- 石田孝喜 「幕末維新京都史跡事典 — 新装版 —」
- 平凡社 「太陽コレクション 京都・大坂・中山道」
「別冊太陽 京都古地図散歩」
- JRパンフレットや訪問先でいただいた資料・パンフレット